

第403回 産業事情検討会

“インクルーシブMaaS”の夜明け

講師：中村尚樹氏

ジャーナリスト

司会：大槻裕志

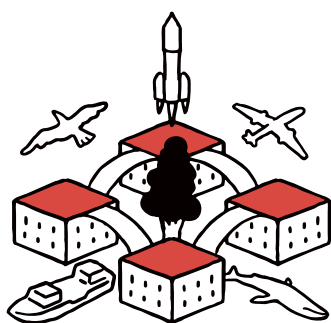
(株)現代経営技術研究所 所長

- I. MaaSの挫折
・MaaSのご本家「マースグローバル」(フィンランド)の経営破綻
- II. インクルーシブMaaSとは
- III. 運転寿命と地域交通のMaaS
・車検不要「ビーコロ」・特定小型原付「キュリオ」・里モビニティ
・欧州のクワドリシクル
- IV. 障害のある人たちのMaaS
・AIスーツケース・あしらせ・グライド・視覚障害者の運転体験
- V. 都市のMaaS
・宇都宮LRT
- VI. 地域が主体のカーシェアリング
・平時のコミュニティカーシェアリング・災害時のモビリティレジリエンス
- VII. まとめ

2026年11月2日(月)

15:00~17:00

Zoom によるオンライン開催



MaaS(Mobility as a Service)は、移動をひとつのサービスとして統合し、誰もがシームレスに移動できる社会を描く概念として世界的に注目を集めてきた。しかしその本家であるフィンランドのマースグローバル社が経営破綻に至った現実、MaaSという理念そのものの限界を私たちに突きつけている。

本講演では、この挫折を出発点に、講師が独自に提唱する「インクルーシブMaaS」という概念を軸に据え、これからの移動のあり方を問い直す。インクルーシブMaaSとは、単に交通手段を効率よく組み合わせることではなく、高齢者、障害のある人、そして被災地の住民まで、あらゆる立場の人が自らの意思で移動できる社会を実現するための枠組みである。

具体的には、運転免許を返納した高齢者を支える車検不要の超小型モビリティや特定小型原付、里モビニティ、欧州のクワドリシクルによる地域交通の再設計。視覚障害者の歩行を物理的に支えるAIスーツケースや、触覚によるナビゲーション技術「あしらせ」「グライド」など、障害のある人の移動の主体性を取り戻すテクノロジー。宇都宮LRTに見る都市交通の刷新。そして平時のコミュニティカーシェアリングと、災害時のモビリティレジリエンスまで、多岐にわたる実証事例を紹介する。

高齢化による運転免許返納者の急増、地方公共交通の縮小、頻発する自然災害。移動をめぐる課題が複合化するいま、効率だけを追う従来型MaaSでは市場を捉えきれない。多様なニーズに応える設計は、これから伸びる市場そのものでもある。これらはすべて、「誰一人取り残さない移動」を実現するインクルーシブMaaSという一つの視座のもとに結びついている。最新の現場取材にもとづき、移動をめぐる新しい社会像とビジネスの可能性を探る。

講師プロフィール 1960年、鳥取市生まれ。九州大学法学部卒。ジャーナリスト。現研客員研究員。法政大学社会学部非常勤講師。元NHK記者。中村尚樹氏 著書に『日本一わかりやすい宇宙ビジネス—ネクストフロンティアを切り拓く人びと』、『最先端の研究者に聞く日本一わかりやすい2050の未来技術』、『最前線で働く人に聞く日本一わかりやすい5G』、『ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS&CASE』(いずれもプレジデント社)、『マツダの魂—不屈の男 松田恒次』、『最重度の障害児たちが語りはじめるとき』、『認知症を生きるということ—治療とケアの最前線—』、『脳障害を生きる人びと—脳治療の最前線—』(いずれも草思社)、『占領は終わっていない—核・基地・冤罪そして人間—』(緑風出版)、『被爆者が語り始めるまで—ヒロシマ・ナガサキの絆—』、『奇跡の人びと—脳障害を乗り越えて—』(共に新潮文庫)、『「被爆二世」を生きる』(中公新書ラクレ)など。共著に『スペイン市民戦争とアジア—遥かなる自由と理想のために—』(九州大学出版会)、『スペイン内戦とガルシア・ロルカ』(南雲堂フェニックス)、『スペイン内戦(一九三六〜三九)と現在』(ばる出版)など。